

様式 1

港区立御田小学校 令和元年度 授業改善推進プラン

1 区学力調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査の結果を踏まえた課題

国語	<ul style="list-style-type: none"> ・どの領域もよく身に付いていると言えるが、言語事項において、助詞の使い方、指示語の理解など十分に定着していない内容がある。 ・文章を読むことについて、概ね理解できているが、説明的な文章で事柄の順序を考えながら読んだり、段落を意識しながら読んだりする力については、若干課題がある。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年とも、全体的に学習内容がよく身に付いていると言える。 ・個々の問題に着目すると、基本的な観察、資料活用などの技能の習得などは十分とは言えない。 ・資料を読み取ったり、調べたりしたことと日常生活を関連付けて考え、表現する力に課題がある。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に学習内容は、よく身に付いていると言える。 ・各学年とも、式の意味を図や言葉と結び付けて説明する力、また、長さやかさの量感が十分とは言えない。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に、基礎的・基本的な知識・技能は身に付いていると言える。 ・各学年とも、思考力・表現力、活用力においては、高めたい力である。

2 各教科の具体的な授業改善

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<p>国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力</p> <p>(1)日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。</p> <p>(2)日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。</p> <p>(3)言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な言語活動において主体的に取り組める工夫をし、ねらいが明確で、身に付いた力が分かる授業を行う。 ・漢字や言葉の決まりに関する学習では、ベーシックドリルを活用する。継続的なスキル練習に重点を置きながら、興味をもつことができるように言葉を分類して考えたり、言葉の成り立ちについて調べたりする学習を組み入れていくなどの工夫をする。 ・文章を理解するために重要な言葉を選べるように、発達段階に応じ、順序を表す言葉に線を引いたり、段落の並べ替えをしたり、文章の構成を意識する学習を行う。 ・教科書教材の学習の中で、自分の考えをもつ時間と、互いの考えについて話し合っ共有する時間を設定するようにする。 ・ICT 機器や視覚的な教材・教具を使用し、理解しやすい学習をすることにより言語能力を定着させる。 ・教科書教材以外の物語や説明的な文章を日常的に読むことができるように、学校図書館と連携した指導を行う。さらに、国語科と他教科の学習を関連させていく。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	<p>社会的な見方・考え方を働かせ、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力</p> <p>(1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。</p> <p>(3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員として</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図の見方や方位磁針の使い方などの定着を図るために、自分たちで地図をかいたり、方位磁針を使う機会を増やしたりする。実際に方位磁針を見ながら、体験や活動を通して学ぶことができるようにする。また、ベーシックドリルを活用し、確実に理解できるようにする。 ・資料活用を伸ばすために、資料の読み取り方を確認する時間を設定し、確実に理解できるようにする。 ・体験活動や見学を充実させるために、ねらいを明確にする。学習と日常生活を結び付けられるようにする。また、体験や見学をするだけにならないよう、事前事後の学習で確実な知識の定着を図るようにする。 ・自分の考えを適切に表現する力を伸ばすために、学習のまとめや新聞づくり等で自分の考えを書く機会を増やす。また、それらを全体で共有することで、友達や先生の考えに触れ、様々な考え方や表現の仕方を学ぶことができるようにする。

	<p>ての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。</p>
--	---

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
算数	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力</p> <p>(1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能（知識及び技能の習得）</p> <p>(2) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力（思考力・判断力・表現力等の育成）</p> <p>(3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題を解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度（学びに向かう力、人間性等涵養）</p>	<p>・数の構成、分解、計算等の基礎的な学力の定着と向上のために、ベーシックドリル等を活用して基礎的な問題に繰り返し取り組ませる。また、単元ごとに必要な既習事項を確認し、理解を深めてから新しい単元の学習をする。</p> <p>・基礎的、基本的な知識や技能を活用し、思考、判断、表現する力をつけるために、考え方を図や数直線などを用いて説明する活動を多く取り入れる。また、グループや全体で意見を交流し、多様な考え方にふれる場面をつくる。</p> <p>・児童の量感を豊かにするために、数量や図形などについての学習の際には、実際の長さ、大きさ、重さなどを体験させ、実感を伴って理解できるようにする。</p> <p>・文章題などで問われている内容を理解し、演算決定する力をつけるために、場面の様子を絵や図を用いて提示し、視覚的に理解できるようにする。</p> <p>・学んだことを生活の中で活用しようとする態度を養うために、身の回りの数量や図形など、具体的な場面を想定した問題を提示し、解決を図る学習を取り入れる。</p>

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<p>自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。</p> <p>(3) 自然を愛する心情や主体的に問題解決をしようとする態度を養う。</p>	<p>・知識の定着のために、ベーシックドリルを活用して復習を行う。</p> <p>・児童が見通しをもって観察、実験を行うために、単元の導入を工夫し、興味をもたせ、予想仮説をしっかりとてさせる。</p> <p>・実験結果から分かったことを自分の言葉でまとめたり、実生活と結び付けて考えたりする。</p> <p>・既習事項から他の事象についても疑問をもち、考えを深めたりする場面を意図的につくるなどの工夫をしていく。</p> <p>・自然に親しみ、興味をもたせるために、生き物の成長において、春から冬にかけて成長を追うようにする。植物の栽培や昆虫の飼育という体験活動を通して、その成長を喜んだり、昆虫の活動の不思議さや面白さを感じたりできるようにする。</p> <p>・サイエンスアシスタントとの連携、ICT機器を活用し、学習活動を充実させていく。</p>

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	<p>具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方、考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力</p> <p>(1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気づくとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。</p> <p>(3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだ</p>	<p>・双方向性のある活動や多様な体験（見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなど）をさせる。</p> <p>・年間を通して1、2年生の交流を計画的に行い、友達との関わりを通して、意欲や自信を高めるようにする。</p> <p>・校外に出かけたりゲストティーチャーを招いたりして、地域について学んだり、生き物と触れ合ったり、植物を育てたりする体験を充実させる。</p> <p>・植物の観察では、葉の形や手触り等、様々な表現があることを児童に教え、その中から選んでもよいし、自分で考えてもよいことを伝え、表現を工夫できるようにする。</p> <p>・気付いたことや考えたこと、楽しかったことなどについて他者と伝え合ったり、振り返ったりできるように、言葉、絵、動作、劇化など多様な方法を取り入れる。</p> <p>・めあてを明確にすることによって、主体的に学習に取り組み、今後の学習や生活に生かせるような振り返りができるようにする。</p>

<p>り生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態や活動内容に応じて、ペアやグループでの学びの場を設定する。 ・家庭と連携することで、より愛着をもって植物を育てたり、家庭生活の中で自分の役割を果たしたりできるようにする。
-------------------------------	--

音楽	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<p>音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについての理解、表したい音楽表現をするために必要な技能（知識・及び技能の習得）</p> <p>(2) 音楽表現を工夫すること、音楽を味わって聴くこと（思考力・判断力・表現力等の育成）</p> <p>(3) 音楽を愛好する心情と音楽に対する感性、音楽に親しむ態度、豊かな情操の育成（学びに向かう力、人間性等の涵養）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱では、DVDを見せたり、範唱や自分たちの歌声を聴かせたりして響きのある歌声をイメージさせる。高学年では少人数グループでの練習を取り入れて、主体的・対話的な学びを進める。 ・器楽では、和楽器や金管楽器を含む様々な楽器にふれる機会を多くする。技能の習得については、グループ学習や場の設定、楽譜（段階に応じて選ぶ）を工夫する。担任や学習支援員とも連携し、きめ細かに繰り返し指導し、個々の技能の向上を図る。 ・音楽づくりでは、児童が自分の思いをもち、旋律やリズム、強弱や速度など、音楽表現を工夫できるようにする。 ・鑑賞では身体表現を取り入れたり、DVDやCD、旋律楽譜、付箋や発表ボードを活用したりする。友達と交流を行い、世界や日本の音楽については、背景を理解させ、自分の生活や社会との関わりを意識付ける。 ・多様な音楽活動（歌を歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったり、音楽を聴いたりすることなど）を幅広く体験させ、音楽を愛好する心情を育てる。

図工	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<p>造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすること（知識及び技能）</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想すること（思考力、判断力、表現力等）</p> <p>(3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度（学びに向かう力、人間性等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平面、立体工作、造形遊び、鑑賞をバランスよく取り入れ、6年間の学習の見通しをもった指導計画を作成する。 ・PCやテレビ、書画カメラなどのICT機器を取り入れ、スライドを使った導入や鑑賞の工夫を行うことで、児童の意欲を高める。 ・共同してつくりだす活動を取り入れ、様々な発想や構想、アイデア、表し方などがあることに互いに気づき、表現や鑑賞を高め合えるようにする。 ・児童が個性を生かして活動することができるように、表現方法や材料、用具などを選ぶことができるようにする。 ・すすんで楽しむ意識をもたせながら資質・能力を育成するために、造形遊びを積極的に行う。 ・はさみなどの道具の扱い方については、安全面や使いやすさを児童に考えさせながら指導する。特に安全面においてはなぜそのように使うのかも細かく指導する。

家庭	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力</p> <p>(1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。（知識及び技能）</p> <p>(2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。（思考力、判断力、表現力等）</p> <p>(3) 家庭生活を大切にしている心情を育み、家族や地域の人々とのかかわりを考え、家族の一員として、生活をよりよくし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的な学びを促すために、2年間の学習の見通しをもった指導計画を作成する。 ・技能の習得状況に応じた少人数指導や教材・教具の工夫など、個に応じた指導の充実を図る。 ・積極的に地域コーディネーターを活用し、個々への細かい支援ができるようにする。 ・ICT機器を活用し可視化することで、複雑な工程を理解しやすくする。 ・調理や製作等の手順の根拠を考えたり、調理道具の安全な使い方や衛生について考えたりするなど、実践的・体験的な活動を充実させる。 ・調理や製作等の学習では、積極的に地域コーディネーターを活用し、個々への細かい支援ができるようにする。 ・身に付けた知識及び技能などを日常生活に活用できるよう、家庭や地域との連携を図る。

	ようと工夫する実践的な態度を養う。 (学びに向かう力、人間性等)
--	-------------------------------------

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習課程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力</p> <p>(1)その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3)運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードを活用し、技能を身に付けるためのポイントや課題をいつでも確認できるようにする。 学習の最後に振り返る時間を設け、自己の変化や次の課題に気付き、次時に生かせるようにする。 主運動前に、その動きにつながる補助運動を取り入れる。 運動が苦手な児童も前向きに取り組めるよう、スモールステップで授業を計画する。 様々な運動種目をバランスよく授業で扱っていく。また、具体的なポイントを絞って指導する。 基礎体力を向上させるために、大事なポイントを児童に教え、反復練習させる。 児童同士の見合いの時間や伝え合う時間を設け、友達の姿から必要な動きを学んだり、友達からのアドバイスを通して動きのポイントに気付いたりできるようにする。 タブレットで映像をとったり、手本となる映像をあらかじめ用意しておいたりするなど、ICT機器を活用し、動きのイメージをもたせ、ポイントの確認ができるようにする。 準備運動の基本的なやり方や必要性を確認する。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	<p>英語による実践的コミュニケーション能力の基礎を培うとともに、広く世界に目を向けた国際理解教育を推進し、国際人としての資質を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音声を中心とした学習活動を行っていく。低学年ではアルファベット、簡単な固有名詞の発音をネイティブティーチャーの音声、視聴覚教材を活用しながら「聞く」活動、音声に慣れる活動（歌やリズム）を重点的に指導する。高学年では音声から文字化（簡単な単語の書き取り）へ進め、中学校英語に向けての橋渡しとなる活動を行う。 活動を楽しめるよう、発音等に自信をもてない児童を中心に、ネイティブティーチャーと連携を図りながらチームティーチングの良さを積極的に生かして個に応じた指導を行っていく。 各単元のねらい、目標に沿った活動を行うことができるように、事前に担任とネイティブティーチャーで授業計画について連絡を密にとり、効果的な授業を実施できるようにする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	<p>第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考える学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階に応じた教材提示を行うことで、児童が教材の世界に入り、登場人物に共感して気持ちを考えることができるようにする。(紙芝居形式、ICT機器の活用、ペーパーサート、パネルシアター形式など) 学年で授業計画を話し合い、導入、展開前段をテンポよく進めることで、展開後段の時間を確保する。 「道徳ノート」やワークシートに自分の考えや思いを書く時間など、自己を見つめる時間を取る。 ペアやトリオでの話し合いの時間を確保し、自分の考えを広げたり、深めたりするようにする。 教科や学校行事との関連を意識して指導を工夫する。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	<p>望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動の年間指導計画を学級活動(1)(2)(3)に分類して、計画し直し、児童の主体的な態度の育成を図る。 自治的なクラブ活動が行えるように、児童の意見を反映させられるように計画する。また、年度末にクラブの紹介を行い、一年間の成果を発表する場を設ける。 主体的な委員会活動ができるように、活動の具体例などを示し、児童の思いや願いを実現できるようにする。

育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
<p>探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力</p> <p>(1) 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解する。</p> <p>(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する。</p> <p>(3) 探究的な学習に主体的・共同的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。</p>	<p>一人ひとりの児童が、興味・関心に応じた課題設定を行い、学習活動を展開していけるように、保護者をはじめ地域の人々やゲストティーチャー、専門家などの外部の教育力を活用する。</p> <p>探究プロセスにおいて、児童の学習状況に応じた課題への取り組み方の事例を示したり、情報の整理・分析方法（図示・比較・分類など）を提示したりして、児童の思考や技能を補助する指導を行う。</p> <p>児童が、多様な情報手段（デジタルカメラやタブレット型端末、プロジェクターなど）から目的に応じて効果的に選択し活用できるように情報機器の整備を行い、学習意欲の向上につなげる。</p> <p>自己変容を自覚するために、自らの学びを位置付けたり価値付けたりする。振り返りの場を学習過程に位置付ける。</p>

コメントの追加 [c00007301]:

書式変更: フォントの色 : テキスト 1

書式変更: リスト段落, 行間 : 最小値 0 pt, 段落番号 + レベル : 1 + 番号のスタイル : 1, 2, 3
 ... + 開始 : 1 + 配置 : 左 + 整列 : 0 mm + インデント : 7.7 mm

書式変更: フォントの色 : テキスト 1